

移民政策学会（冬期大会）シンポジウム概要

日時：2012年12月8日（土） 15：30～18：00

場所：名古屋学院大学 白鳥学舎 曙館6階602教室

企画者：野山 広（国立国語研究所）

テーマ「移民受け入れと社会統合～生老病死（ライフ）の観点から」

【企画趣旨】

人口減少とグローバル化の中、日本が「国を開く」上で、同化主義に陥ることなく社会統合を行うことは決して容易なことではない。果たして、どのような実践を行っていくことが肝要なのか。国・政府レベルのビジョンの不在が問われている一方、地方・自治体では、集住都市を中心に、国に先駆けて、共生の理念を掲げ、この難航、難行に漕ぎ出そうとしてさまざまな試行錯誤が行われてきた経緯がある。

この試行錯誤の中でも、今回のシンポジウムでは、3.11以降、より重要性が増したと考えられる人（ひと）の「生老病死（ライフ）」を支えることばの教育・学習、人間交流、支援の現場に関連した分野に特に焦点を当てたい。具体的には、日本語学習支援・システム構築（北村祐人）、介護・看護（神吉宇一）、医療・行政（熊谷晃）、医療・健康政策（岩永資隆）、そして言語サービス・多文化教育（野山）の分野である。

なお、この目的に向けて議論を活性化するために、ディスカッサントとして、移民の受け入れ政策に詳しい専門家の一人（鈴木恵理子）にも参加・協力いただく。

このシンポジウムの場で報告・発表されるさまざまな実践・活動や、その場での意見交換を通して、「開かれた日本」の社会統合、共生の在り方やその可能性について模索することが、本企画の目的である。

パネリスト（敬称略）

北村祐人（とよた日本語学習支援システム システムコーディネーター）

神吉宇一（(財)海外技術者研修協会グループ長）

熊谷 晃（長野県（前）健康福祉部）

岩永資隆（京都大学医学部医学研究科助教（健康政策・国際保健学担当））

ディスカッサント

鈴木江理子（国土舘大学准教授）

コーディネーター・司会進行

野山 広（国立国語研究所日本語教育研究・情報センター准教授）

パネリストの報告・発表の題目

北村「日本語学習支援システムの展開からみえてきたことー可能性と課題」

神吉「介護・看護に関する政策・施策の展開と現場からみえてきたこと」

熊谷「定住外国人と医療・福祉行政・施策ー長野県の現状と課題からの提言ー」

岩永「移民定住問題と医療・健康政策の抱える課題」